



石鏡山



第46号

発行所  
〒799-1101 愛媛県西条市  
小松町新屋敷乙42-1  
小松高等学校  
養正  
印刷 株式会社サラト

### ご挨拶



養正会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より養正会活動にご理解とご支援を賜り誠に有難う御座います。

さて、今年の本部総会は四年ぶりに来賓と多くの会員の皆様に出席を頂き総会・懇親会が通常通り盛大に開催する事ができアトラクションでは、今久保宏美さんと吹奏楽部のジョイントコンサートがあり感激し・感動し素敵な時間を

### 養正会会長 工藤 憲治

を過ごして頂きました。又、関西・関東・松山の各支部に於きましても、多くの参加をいただき盛大に総会が行われ素敵なアトラクションがあり、会員相互の親睦が行われました。参加を頂いた皆様には心より感謝申し上げます。

昨年からの話題になっています、小松高校の再編成については県の方針が決定し、新設開設準備委員会が開催されており、新しい高校の校名・コンセプトや基本方針や新校に関わる事項などは協議され決定され、令和八年度より新校の生徒が入学してきます。そして二つの学校

### 今、できること

### 校長 松浦 ヨリ子



養正会の皆さまには、本校の教育活動に対して、多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。赴任して三年になりますが、初めて念願が叶い、本部、松山・関西・関東支部の総会全てに参加させていただきました。皆さまから温かい激励や御助言をいただき、母校に寄せてくださっている熱い想いに対し深く感謝した次第です。

今年度、ようやく様々な制限が緩和され、学校に本来の姿が戻ってきました。生徒たちは、「変幻自在」輝く青春、刻め心に「」をスローガンとして掲げ、高校生活を充実させようと頑張っています。体育大会や小松高祭などの学校行事、学習、部活動、探究活動など随所で、日々の「積微力行」の取組が実を結んでいます。一部を紹介します。二年生六名による、「東予歴史トリップ」や「えひめ教育資料館開設」など歴史文化を発信する探究活動は、好評を博しました。部活

動においては、男子バレー部が県総体と春高バレー県予選で準優勝、野球部が秋の大会ベスト四、サッカー部男子が東予地区新人大会で優勝と活躍し、運動部全体に最後まで諦めない強さが際立ってきました。文化部では、吹奏楽部がマーチング四国大会で銀賞受賞、美術部員も高文祭で優秀賞受賞、伝統の日本音楽部も文化祭やポラントニア演奏に熱心に取り組んでいます。進路決定においても希望進路百パーセント達成を目指し、奮闘中です。生徒の活躍状況は学校ホームページで紹介しておりますので、そちらを是非お楽しみください。

さて、少子化に伴う生徒数の減少、情報化など環境が変化する中で、県は「愛媛県県立学校振興計画」を令和五年三月に決定・公表しました。皆さまには何度も何度も機会あることに熱心に意見を挙げていただき、御尽力いただきました。深く感謝いたします。本計画により、小松・丹原・東予高校の三校が令和八年度に小松高校を校地とする周桑高校（仮称）と東予高校を校地とする西条総合科学高校（仮称）に再編されることに

が共存する事態となる予定です。小松高校は令和九年度に百二十周年を迎えますが周年事業を行うのはどのようにすれば良いのかはこれからの問題として皆様のご協力を頂き取り組んでいきたいと思っております。

養正会の今後についても新校のすべてが決定してから会員の皆様と共に考えていきたいと思います。

小松高校と養正会の長い歴史をできる限り守り後世に伝えていかなければならないと思っております。これからも皆様のお力を借りていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

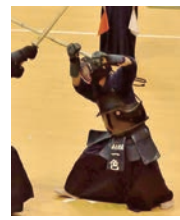
最後になりましたが、会員の皆様を始め関係各位の方々のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

再編については、令和九年度に百二十周年を迎える本校の歴史や皆さまの母校に向けてくださる心情を思う時、言葉では表し難い思いを抱いています。計画が決定した今、できることは、教職員一丸となって、地域に貢献する人間性豊かな人材の育成に一層邁進し、よき伝統を守り継ぎ、地域と共に歩む学校であり続けること、そして、多彩なコースを配した新校で新しい豊かな学びが実現されるよう準備と広報に努めていくことだと考えています。今後とも変わらぬお力添えをいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

学校名	学科	コース・系列	R 8	
			学級	定員
周桑 (仮称)	普通	文理探究 教員養成 社会共創	3	120
		理数情報	1	40
西条総合科学 (仮称)	農工業 家庭	農業	1	40
		工業	2	80
		総合進学 産業マネジメント	1	40
	総合		2	80

# 石鎚山系山間を写真記録しています

一色 龍太郎



高校1年の夏休み、2泊3日の行程で東之川から瓶ヶ森に登り、縦断して石鎚山に行く学校主催の登山合宿に参加し、初めて石鎚山に登りました。生まれ育った広大な周桑平野を、西日本最高峰の頂きから俯瞰したときの感動は、今も忘れません。

初登山で山歩きの楽しさを覚えてからは、石鎚山系山々の頂を目指し幾度となく通いました。時折見せてくれる日の出や日没時の神秘的な光景に魅了され、山岳写真にも興味を持ちはじめ、カメラと三脚をリュックに詰めて行き、正月を石鎚山で迎えた年もありました。還暦を迎える数年前からは、前々から持つ疾患で体力を要する高い山は避けるようになりました。

若いころは、登山口周辺や行く途中目に入る山間の集落には、山里の原風景を彷彿させてくれるような、のどかな集落風景が広がっていました。しばし立ち止まり、眺めに癒やされながら一服したものです。しかしながら行くたびに、人影は減り空き家や耕作放棄地が増えていく集落。以前から、衰退の一途をたどるのを少しずつ感じてはいましたが、時が経つにつれ気にかかるとなりました。

日本は国土の70パーセントを山地が占め、思いのほか山地は多く、山岳国家と呼ばれるでも過言ではないと思っています。かつて日本の山間には多くの人が暮らし、造林や伐採、製炭などの林業や、採鉱、精錬などの鉱業の仕事に従事し、賑わい潤った時代がありました。しかしながら、産出量の減少や、戦後は安価な海外産に押され、林業や鉱業は次第に衰退していきました。米など主食は容易に現金で手に入りはじめ、

自給自足生活の崩壊がはじまり、山間部の交通網も次第に進展すると、若者たちを中心に、仕事やより多くの現金収入を求め、山から人の流出がはじまりました。時が経つにつれ、高齢過疎化の波が山間へと押し寄せていき、現在は限界集落や廃集落が、全国にいたるところに、数え切れないほど存在しています。石鎚山系山間集落を訪れ、歩くときわかりますが、わが郷土も例外ではありません。そのような集落が数多く出現しています。石鎚山系山間で、先人たちが悠久の時を刻む間に、たくさん有形無形の民俗文化を育んだ、長い歴史を持つ集落の多くが、消えようとしています。すでに消えてしまった集落も数多くあります。

封建時代に支配者階級たちが育んだ、さらびやかな文化遺産は、国や県など、行政による手厚い保護が多々あるようですが、山間の狭い地域で、庶民が育んだ有形無形の民俗遺産に、耳目が集まることは少なく、保存されるものはわずかと感じています。

伝統行事など無形文化は集落から人が去ると伝承は途切れ、人々の記憶からもやがては消えゆき、有形文化は、放置されると土に埋もれゆく運命に多くがあたりまです。このままでもいいのだろうか、目の当たりにして思うときがあります。

郷土に暮らす石鎚山をはじめとする、美しい山岳風景を撮影するカメラマンは、近年特に多いようですが、失われゆく山間集落の文化や文化遺産を写真記録する人は数少ない、と思えました。生まれ育った地元の歴史に興味を持つ郷土史家たちが、地元の歴史を調査研究するようになり、「石鎚山系山間で、現在も失われつつある文化や文化遺産を撮影し、写真で残そう」と思い始めました。思いは膨らみ「石鎚山系山間の今を写真で残す」と決めた活動を始めまし

た。さて、何からとりかろうか、と考えていた時、石鎚村(現西条市小松町石鎚)内に20ほどある集落跡の多くに、六地藏が鎮座しているというのを知りました。そして、まずは20ほどの集落跡をひとつずつ訪れ、六地藏を探して歩き撮影することからはじめました。

行き始めると、撮影したい被写体は、六地藏にとどまらず芋煮の式に次から次へと増えていきました。かつては、多くの修験者や遍路たちが往来したであろう石鎚山や横峰寺に通じた古道脇には、空海や役行者を模った古い石造物が多く鎮座しています。山中の奥深く、半ば放棄されたような人工林が覆う薄暗い急峻な山肌には、かつて人が暮らし、石を高く積み造った石垣群が多く残っています。又、置いてきぼりになった懐かしい発動機や五右衛門風呂の釜、放置され転がる飯炊き釜などを見ると、幼少のころの淡い記憶が甦ってきます。初めて見る可憐な花が咲く山野草、平地では見るこ

とがないリス、ムササビ、ガマガエルなど小動物に遭遇することもたびたびです。山間を歩いていると、たくさん民俗文化遺産や動植物などを見ることができ、まるで博物館にいるようです。

「石鎚山系山間の今を写真で残す」を目標に、あちこち歩き、少しずつ撮り続けていきました。10年余りが経ったとき、こちらへ一区切りにして、1冊の本にまとめようとい決めました。そして、撮った写真をセレクトして編集し、石鎚山系山間を記録した拙著「石鎚山に抱かれて」を出版しました。幸いにも昨年、日本自費出版文化賞・地域文化部門賞をいただきました。わが郷土、石鎚山系山間を撮り続けることに少しの励みとなりました。

あと何年出来るかはわかりませんが、今後も心地良い汗を流しながら無理をせず、石鎚山系の山間を歩き写真記録を続けていきたいと思います。

## 松山支部

### つながる笑顔を未来へ

松山支部長 中原由美子

令和5年9月10日(日)、爽やかな秋晴れの中、窓からは松山城に手が届きそうな会館「リジエール松山」にて、松山支部総会・懇親会を開催いたしました。

恩師・学校関係者、同窓生、本部、各支部より総勢58名の方々のご列席を賜り、4年ぶりの開催に感慨もひとしおでした。改めて皆様にはお礼と感謝を申し上げます。

総会後には、恩師阿部守隆先生の乾杯のご発声により懇親会が始まり、至るところで席を移動しての歓談や、出席者も参加してのマジックショーでは会場が一体となり、始終和やかな雰囲気の中時間が流れて行きました。恒例の校歌斉唱では、最もあの頃に戻れる時間を全員で共有することが出来ました。

今回はアフターコロナ以降初の開催の為、前回に比べ小規模の会となりましたが、皆様のお顔をより間近に感じられ、例年以上に親睦を図ることが出来たと思っております。

今後も「小松高校同窓生」の笑顔で未来へ繋げていけるよう、令和6年度松山支部総会(7月)又は9月を予定)の準備を進めてまいります。会場でお一人でも多くの笑顔に会えることを切に願っております。



Photo studio 華縁 はなえにし

【フリーダイヤル】 0120-88-4840

■営業時間 / 9:30 ~ 18:30 ■定休日 / 火・木曜日

■〒793-0041 西条市神拝甲 487-3

株式会社 安本武司商店

京都市下京区堺町五条上る俵屋町228-1

夢を叶えるスポーツ店

有限会社 オオウエスポーツ

〒792-0804 新居浜市田所町 4-61

TEL(0897)33-4740

FAX(0897)33-4742

homepage <https://ooue-sports.com>

ーインスタグラムもチェックしてね!

関西支部

希望溢れる時を



関西支部長 藤木はるみ

養正会関西支部に對しまして、平素は御理解と御協力を頂き、心より感謝と御礼を申し上げます。昨年は、コロナ禍の状況で、総会を開催することがむずかしく、皆様としっかり協議を重ね、ついに待ちに待った総会を、令和5年8月5日、中崎町ホールで4年ぶりに開催することが出来ました。

養正会会長、校長先生をはじめ、母校関係者の御臨席そして本部、関東、松山の地からも沢山の同窓の友が大阪の地に集って下さり盛大に開催することが出来ました。改めて、心より感謝申し上げます。

会議では、行事報告、決算報告、役員紹介が行われ、全議案が、全会一致で承認され



2024年度関西支部総会は、8月3日(土)ホテルグランヴィア大阪で、開催の予定です。賑やかな、希望溢れる総会にして参ります。どうぞ皆様の御参加を、お待ちしております。宜しくお願ひ申し上げます。

関東支部

おためごかしのこと



関東支部長 矢野光治

三年連続して開催中止であった関東支部総会は、コロナ禍の心配が払拭されないうちの役員会で八月の開催実施を決めた。総会は八月二六日(土)挙行、会場は従来通り帝国ホテルを使用した。総会参加者は七一名、久々の対面方式の会合でもあり大いに盛り上がりを見せた。遠路はるばるご臨席を賜った校長先生はじめ養正会役員各位、また出席をいただいた関東支部会員諸氏にはあらためて感謝の意を表する次第です。

昨夏以来母校を悩ませていた高校再編の件は、年変わりの今年早々、校名問題を残して県教育委員会の振興計画案通りに実施されることが決まった。実施は令和八年度からである。これに伴い同窓会組織の「在り方」も緊急課題となる。

再編の結論に至る議論経過には大いに疑問が残る。県教委は昨年六月から「振興計画案策定の指針」、「振興計画案」、「特集」どうなる?愛媛の県立高再編 田所教育長インタビュー」と立て続けに公表した。その後一回に分けての地区説明会の実施、十一月にはパブリックコメント(意見公募)を広く求めた。一方、計画案が発表されると統廃合の対象校ではござって「存続の会」を立ち上げ、対応策として署名活動に奔走した。その後県教委は計画案策定に向けての交渉相手として終始この「存続の会」を相手に選ぶ。「存続の会」は単なる当該校のOB・OGによる臨時的に構成したグループであつて教育問題の専門家集

ではない。真に教育問題を論ずるなら教育行政を専門とする教育委員会と教育を実践する現場の担当者(教職員)とが本筋の在り方である。今ある問題点を常々感じているのは現場当事者であり、この有事に現場の「声」を活用しないのはあまりにも勿体ない。「行政」と「教学」を住み分けていようでもあるが、この困難な局面ではこの両者の協力なしではうまく対応できないだろうと心配する。議論の方法で巧妙に相手をすり替えたり、論点ずらしをやることは「おためごかし」と言つて古くから存在する。

朗報が一つ。地域文化の発信拠点として、今日二五日より「えひめ教育資料館」を母校キャンパス内にある同窓会館「養正会館」の一角に開設する。小松地域が古くから教育先進地であつたことに着目して母校や地域に残る漢籍類や書、文房四宝などの教育資料を収集して公開するとのことである。学祖近藤篤山先生の関連資料も多く展示される。田所軍兵衛教諭の指導のもと六名の現役二年生が準備運営の任に当たるとのことである。(十一月七日愛媛新聞)今年も多くの養正会員が巣立っていくが、是非、会館を訪れて母校の歴史の一端を知り今後の心のよすがとしてもらいたい。

もう一つの朗報。今年六月関東支部事務局長の佐伯正孝さんが、西条市の福祉施設や市社会福祉協議会への半世紀以上に渡る寄付行為に對して、その功績を讃えられ西条市社協から感謝状を贈呈された。ここに特記して同窓仲間としての喜びを分かち合いたい。

二〇二四年度関東支部の総会の開催日は八月三十一日(土)、使用会場は昨年度と同じ帝国ホテルを予定しております。開催実施の節には、是非、関東の総会へご参集いただけますようお願いいたします。また対面による会合で大いに親睦を深め合います。

株式会社 縁 居酒屋  
西条市喜多台445番地5  
TEL 0898-65-7747

株式会社 田窪工業所  
〒799-1392 愛媛県西条市北条962番7  
TEL 0898-65-5000(代)  
FAX 0898-65-4677

リブラ薬局  
リブラ薬局(小松店)  
〒799-1101 西条市小松町新屋敷甲209-6  
TEL 0898-76-3500 FAX 0898-76-3502  
リブラ薬局(玉津店)  
〒793-0006 西条市下島山甲1237番5  
TEL 0897-47-5888 FAX 0897-47-5889



◆本部総会



◆佐伯正孝様の市民栄誉賞受賞



◆関東支部

# 学 校 行 事

◆四月十日(月)午後一時から入学式が挙行されました。百二十名の新入生を迎え、令和五年度のスタートを切りました。新入生代表が皆様の期待に応えられるよう勉学や部活動に励み、充実した高校生活を送りたいと宣誓しました。



◆第七十五回体育大会が九月五日(火)に実施されました。今年度は、声出しの応援競演や生徒と共にリレーで奮闘する教職員の姿も見られ、盛り上がりました。総合優勝の栄冠は、紫雲に輝きました。



◆十一月十日(金)雨模様の中、ウォークラリー大会を実施しました。チェックポイントは石鎚神社の第二駐車場をお借りしました。ごみ拾いをしながら一緒に歩いてくれた校長先生に後押しされ、小雨が降りしきる中、往復十二キロコースを全員が完歩でき、記憶に残る大会となりました。地域・PTAの皆さん、治道・給水所での声掛けが励みとなりました。自然の中を歩くことにより、郷土の自然の良さを知るとともに、地域の人と触れ合い、協力する態度を養い、社会道徳などを身に付ける機会となりました。また、係役員としての活動を通して、「観る、支える、知る」という多様なかわり方があることも学びました。



# 活躍する在校生

「感謝の気持ちを忘れずに」

総合体育文化部 矢野 天音

私は、夏の愛媛第一回まちづくりヒーロープレゼンコンテストの写真部門で最優秀個人賞に選ばれました。このコンテストは自分たちのまちを支える存在、まちづくりのヒーローを探し、チームで取材を行い、地元の魅力と自分の未来の在り方についてプレゼンする大会です。私は、SDGsのチームに所属し、廃棄処分になる野菜を農家さんから無償で提供していただき、高校生で料理をし、販売する「0円食堂」という企画を行いました。この企画をサポートしてくださった、市内の直売所の小野さんに取材をしました。貴重なお話を聞き、コンテストの趣旨を理解して、全力で取り組みました。放課後、コンテストに向けてプレゼンを作成し、販売前の買い出し、試作を担当しました。日々の活動は大変でしたが、チームの仲間との絆を深め、栄冠を勝ち取ることができました。この経験を生かして、将来の夢を実現して未来に繋げようと考えました。



『努力は必ず報われる』

吹奏楽部部长 浅田 聖奈

小松高校吹奏楽部は、9月9日に伊予郡松前町にある松前体育館で愛媛県大会が行われ、金賞を受賞して四国大会への切符を手にしました。そして、10月7日土曜日、高知市にある春野総合運動公園体育館で開催された、マーチングコンテスト四国支部大会に出場しました。

四国大会での結果は、私たちも予想していませんでした『銀賞』でした。思わぬ結果に部員も声が出ていませんでした。後日審査結果が手に渡り、見てみると、全国大会常連のような高校との点数差はわずか5点でした。他にも、代表校が3点のところを小松に4点がつくなど、とても高い評価をいただきました。

今年は、前年度までとは環境がガラリと変わりました。コロナ禍もだいぶ治まり、部員数も倍以上となり、そんなことができるが増えた私たちが掲げた今年の目標は『挑戦』でした。

吹奏楽ですら初心者ばかりのバンドで、更にマーチングという動きながら演奏をするという苦難に何度も心折れそうになりましたが、仲間がいてくれたおかげでやり遂げることができました。

『努力は報われる』言葉通りになると実感することができました。

これからも皆様によい報告ができるように努力していきます。今後共、小松高校吹奏楽部の応援をよろしく願います。



## ソフトリンク株式会社

本社 福岡市博多区博多駅前3-7-35 〒812-0011  
博多ハイテックビル  
TEL: (092)437-5030 FAX: (092)437-5031  
E-mail: ito@e-softlink.co.jp  
URL: http://www.e-softlink.co.jp

## 四国総合保険事務所株式会社



事務所 / 〒790-0913  
松山市畑寺1丁目14-32  
TEL (089) 932-1890(代)  
FAX (089) 943-6943  
携帯 090-8694-2857  
E-mail: koichi\_mori@cnc.e-catv.ne.jp

## 有限会社 石川不動産鑑定所

〒793-0030 愛媛県西条市大町452番地6  
TEL: 0897-55-7151 FAX: 0897-55-7124  
E-mail: i-kan@vega.ocn.ne.jp

愛媛県知事免許(12)第1944号

お部屋さがし・住まいの売却・購入は

## 有限会社 東予住建

営業時間 / 9:00 ~ 18:00  
電話 0898-64-1123



## 株式会社 ミツワ電気商会

OA情報機器事業部

〒791-0506 愛媛県西条市丹原町徳能甲75番地7  
TEL 0898-68-7131 FAX 0898-68-0705  
http://www.mitsuwa-ele.co.jp

## 株式会社 H&M High quality design & Material 一級建築士事務所

〒793-0030 愛媛県西条市中野甲616-9 SICS インキュベータ室NO.4  
TEL: 0897-47-5977 FAX: 0897-47-5966 Mobile: 090-7785-2057  
E-mail: handm-2013@khf.biglobe.ne.jp Mobile-mail: handm-111@docomo.ne.jp  
web site URL: http://www.handm-2013.com

一級建築士 二級土木施工管理技士  
一級建築施工管理技士 応急危険度判定士

# 部活動の記録

## 男子バレーボール部、三年間の集大成で完全燃焼！

十一月二十三日(木)、第七十六回全日本バレーボール選手権大会愛媛県代表決定戦の決勝戦が県武道館で行われました。十一年ぶりの決勝に進んだ本校は、第一シードの強豪校とがっぷり四つの試合ができました。結果は、小松2(○25-19、●24-26、●19-25、○32-30、●12-15)新田3の惜敗でしたが、第四セットを逆転で取り返した時には、応援席も一体となり、初優勝を狙う気持ちが昂りました。三年生五人を中心にまとまり、素晴らしい内容のゲームでした。これまで支えてくださった皆様に感謝し、後輩たちに夢の実現を託したいと思います。



## 甲子園での勝利を目指して

春の甲子園(選抜高等学校野球大会)の選考につながる、令和5年度秋季四国地区高等学校野球大会が9月中旬より行われた。新居浜工業高校と対戦した予選では、月岡(2年)、江口(2年)の本塁打を含む13安打の猛攻で17対1と勝利した。第4シードに選ばれた県大会では、1回戦で西条高校と対戦。攻撃では青木(2年)が本塁打を放つなど、5打点の活躍。守備では日野(2年)、長江(2年)、村上(1年)が西条打線を5安打に抑え、7対1と快勝した。大洲高校との準々決勝では、3回に7点を奪われるも、4回に6点、5回に6点、6回に5点と小松打線が爆発。17対7の6回コールド勝利を収めた。勝てば四国大会出場が決まる準決勝では、今治西高校と対戦。江口の本塁打で先制するも、相手の四番打者に満塁本塁打を打たれ劣勢に。下迫(2年)の適時打で1点を返すも相手打線を止められず、2対9の7回コールド敗退を喫す。四国大会出場を賭けた代表決定戦では、宇和島東高校と対戦。久米(1年)、薬師神(2年)の適時打で得点を重ねるも中盤の失点が響き、2対5で敗退。3年ぶりの四国大会出場、春の甲子園出場とはならなかったが、県ベスト4と健闘した。夏に向けて、より投打に磨きを掛け、10年ぶりの甲子園出場を目指す。皆様、今後とも応援よろしくお願いたします。



### 東洋管工株式会社

〒799-1354  
愛媛県西条市北条1009番地  
TEL.0898-64-1010  
給排水設備・空調設備



### 株式会社 丹下興産

〒799-1372 愛媛県西条市吉田298番地9  
TEL : 0898-68-7738



### DENTIST

799-1371 愛媛県西条市周布822-2  
たかはし歯科 TEL.0898-68-0222

### 有限会社 太陽

浄化槽保守点検業 愛媛県知事(登-24)第305号

〒793-0035 愛媛県西条市福武甲2129番地1

ギフトと雑貨のお店

### 有限会社 あきかわ

799-1351  
愛媛県西条市三津屋211-1  
TEL.0898-64-0488



### 工藤石油株式会社

西条市大町1215-1 〒793-0030

### 朝日エンタープライズ株式会社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋四丁目4番8号  
電話 03(3264)3767  
〒336-0015 埼玉県さいたま市南区太田窪2丁目9番23号

# 活躍する 卒業生たち

## コミュニケーション

安本 益邦



今、世の中、ITが駆使され高度な情報化社会となつていきます。何かと便利な暮らしになった反面、心の触れ合いや会話など、他人とのコミュニケーションが以前に比べて稀薄になつている気がします。

また、世の中には、以前では、考えられないような事件がお茶の間を騒がせています。何か大切なものを忘れた世の中になつている気がします。私は、小さい頃から野球をしておりましたが、その野球のおかげで京都は室町の呉服問屋に就職することができ、以来、65年、京都に住んでいます。この会社は野球経験者しか採用しない会社でした。というのも、当時の社長が野球に礼儀や精神力など、社会人として必要なものを自然に身につけてくれると知っていたからです。元巨人の別所氏も講演で次のことを話されていました。スポーツには、一、「お願いします」という挨拶をする心、一、「ありがとうございます」と感謝の心、一、「申し訳ありません」という反省の心、一、「おかげさまで」という謙虚な心、一、「私がやります」という奉仕の心という5つの心があるというものでした。これは、仕事はもちろん、家庭や子育てにも

大変役立つことです。

現在、私は和装関係の会社を経営しておりますが、和装の世界からも、このような教えを学ぶことができ

ます。普段ジーンズしか着ないようなやんちゃな子供に着物をきせると、急におしとやかに言葉遣いも変化します。

どこか殺伐とした、無責任な現代社会ですが今後、私自身、人思いやる気持を大切に皆様と共に明るく、元気に歩んで行きたいと思

## 自分らしく生きる

能田ゆかり



私は社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理士としてスクールソーシャル

ワーカー(以下、SSW)と自殺対策の相談員をしています。SSWは学校から依頼を受け、不登校や虐待、いじめなど様々なことに困っている子ども達の支援をする仕事です。資格をとったのは40歳代になってからでした。10数年前に乳癌と診断され、医師から私の5年後の生存率を告げられ、「5年後に死ぬかもしれないのやったら、楽しくないと損や。やりた

われていたことでした。何もかもうまくやらないと自分の価値がないように思っていました。そんなことを踏まえ、私のように生きづらさを感じている人達へ少しでも今の自分

でいいと思えるよう、いろいろな活動をしていきます。また実践の中で、パートナーとの関係で苦しんでいる女性達への支援も必要と考え、ご家族のサポートを行つていきます。

「自分らしく生きる」今もできて

いるかどうかはわかりません。でも、それは自分がどう考えるか、評価は

自分がすればいいのだと考えます。生きていく意味を問う人がいます。それは他者からの評価でなく、自分

が作っていくもので、どんな形でもいいのだと思います。そういうことを沢山の人が知ってほしいです。

人生一度きり、そこそこの人生

だつたなあと思えるよう、まだまだ楽しんでいきたいと思つています。

2023年10月28日から31日まで

愛媛県では初となるねりんピックが開催されました。

サッカー競技の愛媛県代表として、今治四十雀フットボールクラブ

が参加し、その一員として小松高校

## ねりんピックえひめ大会に参加して

日野 貴博



引き分けと善戦し、念願のブロック優勝を遂げることができました。藤本先生はじめ、小松高校サッカー部員の皆さんも運営に参加していただき、私たちは素晴らしい舞台でプレーすることができました。本当にありがとうございました。

**森本電機**  
愛媛県西条市東町295番地

エディオン小松店 **EDUN**  
株式会社 **岡本**  
〒799-1101 西条市小松町新屋敷甲2057-1  
TEL:0898-72-6215 FAX:0898-72-6216

OA情報機器・オフィス家具・文具・事務用品  
**植木事務器 新居浜店**  
〒792-0023 新居浜市繁本町9番51号  
TEL (0897) 32-4729番  
33-3929番  
FAX (0897) 33-3929番





# 小松の未来を信じ 養正館を創造した竹鼻堅蔵

小松史談会副会長 越智敏雄

小松藩の苦難の時代に、一人の名奉行が出現する。文武両道に秀でた竹鼻正脩。小松藩に学校を創ることを夢見て努力を重ねたが、前途には次々と困難が待ち受けていた。

正脩の父の名は就純。竹鼻就純は、母の実家の矢野家の養子となり家督百石の奉行となった。就純の三男正脩は、逆に矢野家から八石と二人扶持(三石六斗)の徒士であった祖父の竹鼻嘉広の養子となる。祖父は豪胆な人として藩内でも知られていた。正脩は武勇を祖父から受け継ぐと共に俸禄(給与)が少ない下級藩士の竹鼻家を継いだ。

正脩は十八歳の時に五代藩主頼朝(頼朝)に見出され、藩費で京都に留学し山田静齋から朱子学を学んだ。朱子学は「より良く生きる」ための実践の学問である。五年後に藩主頼朝の命により二十三歳で小松に帰り、朱子が編集した「中庸」を藩士に教授した。翌年、中小姓となり、更に累進し天明三年(1783)、四十歳で奉行役となり藩政に参与し、翌年は奉行に昇進した。家柄の格差の厳しい時代に異例中の異例の昇進だが、藩政の舵取りを行った天明から寛政は江戸小水河期と言われるほど寒く飢饉が度々発生し、藩財政も最悪の二十年間である。

藩の政務を行う会所で正脩は堅蔵と呼ばれていた。これから親しみと尊敬を込めて堅蔵と呼ぶ。堅蔵は天明四年に四十一歳で奉行になった。その上司の家老は代々喜多川家が行う。時の家老は十九歳の喜多川久弘。十四歳で家老となり藩主頼朝が舎人(藩主の近くで仕える人)と改称させた。会所日記での舎人は、二・三日続けて「今日も体調悪せず会所を休む」と書かれていた。舎人は兎に角よく休む。実際に体調も悪く会所や藩政の細かな点は堅蔵に任せていたのか、または、切れるの堅蔵との間に確執があった

のかと想像してしまいが、堅蔵の政の方針や判断に反対したとは書かれていない。財政状況が厳しい中で堅蔵の改革に理解を示した若き家老であったのだろう。小松藩一石というが、通常の藩の収入は田畑の本税が4千9百石、付加税が8百石、その他百石の計5千8百石。支出は家臣の俸禄が千9百5十石、藩庁経費7百石、参勤交代や江戸滞在と大坂蔵屋敷の費用が2千8百石、川普請や借入金利子など9百5十石の計6千4百石。差引6百石の赤字。寛政時代の1石の金額を7万5千円とすると毎年4千2百万円もの赤字が繰り返され、二〇年で8億4千万円もの借金を背負うことになる。そのうえ堅蔵が舵取りをした天明・寛政期には飢饉が続く米の収穫は少なかった。藩が得られる本税は4千石程度の年が多かった。収入が減れば支出の何を抑えるか。支出の内、参勤交代は幕府に届出た通り行わなければ藩取潰しの口実を幕府に与えるため、人を減らし格を下げて費用を削ることはできない。一方、小松藩では家臣の俸禄は以前から削減されており百石以上の上級武士は四ツ成(4割支給)であった。堅蔵が藩財政を担い始めたため五年目の天明七年まで飢饉が頻発したため三ツ成(3割支給)とした。収入が低い藩士には段階的に削減を緩め、特に収入の少ない徒士や足輕は9割支給として生活を保障した。この俸禄削減が行われた背景には天明三・五年の大飢饉がある。多くの百姓は、その日に食べる物もない。そうした難民者に対して三月月に渡り一人一日一合の御救い米を藩が支給した。それが出来たのは、厳しい身分社会で百姓は最も低き処に居ながら武士の生活を支えているから、飢饉の時には武士の俸禄を削って百姓を助けるという互助の精神が藩内に根付いていたからといえる。しかし、武士に対しては他にも様々な支

給の削減や節約が求められたため、庭で野菜を育てる武士や内職を行う者もでた。堅蔵は、武士にとって学問は身を修める要、武備は乱に克つての器と藩士の怠惰を許さず、生活が苦しい時にこそ文武の道に求精すべきという理念を貫いた。これは堅蔵が学問によって到達した根本理念であり、やがて藩校開設に繋がる真骨頂である。また、彼は休日には記録の整理に励むと共に藩士の子弟のために寸暇を惜しんで儒書を教えた。こうした堅蔵の日々の姿勢を見ていた家臣は少ない俸禄に文句も言わず文武に励んだ。

寛政元年(1789)には早魁のため、上級武士の俸禄は二ツ五歩成(2割5分支給)とした。また、家督跡式を改革して上級武士の家督相続時には俸禄を削減する方針を取った。同年早魁、同三年領内水損、同四年早魁と大洪水となり、堅蔵は上級武士の俸禄を通常時の四ツ成から更に半割(二割支給)とし、下級武士も6割支給とした。武士の盃事(酒宴)にも制限を行ったが、形式だけは残し不満を抑えた。

寛政五年(1793)に堅蔵は、こうした慢性的に窮乏した藩財政を立て直すため、幕府の度々の藩札禁止令を知りながら六代藩主頼朝の説得し、幕府の許可を受けずに藩札の発行に踏み切った。一次と二次の藩札は新屋敷村庄屋の近藤七作と萩生村庄屋の飯尾治右衛門が発行責任者となった約束手形の様な私札として扱い、幕府の禁令に触れない配慮をして強い財力と民から信任のある庄屋の協力があった初めて出来た藩札発行であり、その後も多くの庄屋の協力を得て発行を重ねる。寛政九年には今治藩も藩札を発行した。その三年後に、今治藩からの藩札許可願を幕府に出さないう通知書に対し、小松藩は江戸表とも相談し許可願は出さないと返書を送るなど、しただたかな一面を見せている。今治との連絡は数度に渡り、最終的には今治が内々で幕府勘定奉行へ聞き合わせた結果、藩札発行は幕府黙認となった。小松藩では借金取りが会所に押し寄せるといったことが会所日記に記されており、その財政逼迫はしたたかさが無ければ乗り切れない状況だった。堅蔵は藩札発行という

錬金術で急場を凌いだ。その利益の配分は藩が8割、藩札の流通と銀貨への換金の責任を負った庄屋が2割であった。ただ、後世の明治政府が新貨幣へ移行する際には、幕府へ無届の藩札は私債とみなされ藩の自力引換を命じられ、藩も庄屋達も大きなツケを払うことになる。

寛政六年には江戸上層敷が頻発した。これに對して百五十人以上の領民から銀や米の永上納願い、百姓以上の庄屋を通じて藩の危機なで田畑の税を増してほしい旨の御加免願いが会所に出された。堅蔵らは、百姓全員が増税を望んでいることを確認したうえで御加免を許可し、永上納は過重負担とならない三十余名に絞って受納を決めた。資材が整った同年春から堅蔵は江戸に行き屋敷普請の指揮を執った。

寛政八年(1796)に藩主頼朝が四十二歳で没し、七代頼朝が六歳で家督を継いだ。飢饉は一段落したが藩財政の余裕がない状態は続いていた。しかし、苦しい時にこそ文武に出精すべきという理念を堅蔵は貫き、享和二年(1802)の六月十七日に竹之下門(現日藩集会所付近)の西に学問所増達校を開設した。念願であった学問による藩内土風の振興と才能のある者の育英に遂に着手した。上級藩士の子弟は強制受講させる一方で、学問所の費用は不要として財力の乏しい下級藩士の子弟の就学を促し、更に神官や医者、農商家の希望者にも門戸を開き、槍術などの兵法も教えた。

藩の未来の為には何より教育こそが大切であると考えた堅蔵は、財政難の中でもあっても藩内の意識を統一し画期的な学問振興の場を創設した。五十八歳の堅蔵は館長を務めながら教え、一人一人の若者に、より良く生きて欲しいと温かく厳しく指導した。自らが見出された様に才



養正館跡の碑  
碑文題 河上哲太

竹鼻正脩の墓誌  
撰者は近藤篤山

能のある若者を育成し、輝かしく確かな小松藩の基盤を築こうとした。そのためには有力な学者を小松に招き、藩の体制を確固たるものにしたと願っていた。堅蔵の目には、川之江で私塾を開いている有名な儒家の近藤篤山が早くから映っていた。寛政十二年(1800)に篤山を小松藩に迎えようとして交渉したが進まず、享和二年(1802)に篤山の父高橋陣内が別子銅山の役人を辞め小松藩の大生院村で暮らした。篤山は師の尾藤二州に再び交渉した。篤山は師の尾藤二州に相談の書簡を送り、藩主の先生である賓師ならば行くべしとの返答を頂いた。翌年、三十七歳の篤山は藩主頼朝の師として厚き待遇で小松藩に迎えられた。堅蔵は篤山と相談し、藩校を拡張して幕府の昌平黉の制度を参考に整備するとともに、校名を養正館と改称した。

二人は、養正館の教育方針の「仁・礼・義」について、朱子の学問の「より良く生きる」とは何か、「徳を高める」にはどうすべきかについて、若き者と小松藩やこの国の未来について熱く語り合った。しかし、僅か三年後の文化二年(1805)に、堅蔵は小松の未来を篤山に託し病没した。竹鼻堅蔵の墓は小松高等学校養正会館から東南方向に直線300mの藍刈墓地上部にあり、藩校養正館の方向を今も見守っている。墓誌の撰者は篤山。堅蔵の考えに賛同し、その人となりを尊敬して小松に来たことが記されている。

私達もエネルギー溢れる若者が拓く未来を信じ、彼らを薫陶できる人へとより良く生き、堅蔵が礎を築いた小松の教育と、その精神を受け継ぐ輝かしい小松高等学校のより良き未来を語ってゆきたい。最後に小松史談会に貴重な紙面を頂きましたことに深謝いたします。

『モットーは積微力行』



生徒会長 竹田 陸人

私は、小松高生としてとても充実した高校生活を送ることができたと思います。日々の生活を振り返ってみても、この三年間が自分自身をとても大きく成長させてくれた思い出がたくさんあります。生徒会長でもあった私は、学校行事の運営などを通して、協力してくれる人の大切さを学びました。生徒会だけではなく、各種委員会役員や先生方の支え、そして、生徒一人一人の協力があって学校行事を成功させることができました。協力してくれる人の大切さは、ボランティア活動に参加している時にも感じました。一日の活動が終わった際に、相手方から「手伝ってくれてありがとう」と言われ、頑張ったよかったですと思える場面がたくさんありました。当初は、あまり人が集まりませんでした。ボランティアスタッフや先生方と力を合わせて最終的には、年間三百人以上の生徒で協働することができました。これは学校の校是である積微力行が感じられた瞬間でした。これからは小松高校で身に付けたことを活かして地域貢献をしていきたいと思えます。最後にこれから節目の年になって活躍していただける幹事の皆さんを紹介いたします。

令和5年度3年生進路決定状況 12月22日現在

Table showing enrollment statistics for the 3rd year of the Reiwa 5th year, categorized by gender and course type (General, Life Design, etc.).

Table listing university and vocational school destinations for graduates, including categories like 4-year universities, short-term universities, and vocational schools.

主な合格先
(四年制大学)
北九州市立大
松山大
松山大
松山大
松山大
松山東雲女子大
名古屋商科大
大阪商業大
大阪産業大
大阪成蹊大
大成学院大
関西福祉大
姫路獨協大
岡山理科大
広島経済大
広島工業大
福山大
広島文教大
徳島文理大
(就職)
住友重機械イオンテクノロジー(株)愛媛事業所(技術職)
(株)西条ドライビングスクール(一般事務)
(株)アドバンテック(生産購買事務)
(株)系プロジェクト(店舗接客業)
(株)トヨ(防護服の製造)
(株)ダイテック(生産技術)
(医)弘仁会(介護職員)
(南)大海(店舗接客業)
今治国際ホテル(調理人)
(南)正栄工業(造船鉄工業)
住友金属鉱山(株)別子事業所(技能職)
濱田重工(株)大阪事業所(技術職)

令和6年度 養正会総会
5月25日(土) 養正会総会石鏡神社会館 (11時~14時)
7月~9月 養正会松山支部総会7月又は9月で準備中
8月3日(土) 養正会関西支部総会 ホテルグランヴィア大阪 12時開始
8月31日(土) 養正会関東支部総会帝国ホテル

養正会報は今年も全会員に配布いたします。配布することにより養正会と母校小松高校の情報が発信できるものと思っております。会員の皆様に養正会報発行協力金は、今年より3,000円とさせて頂いております。協力金は任意であります。会報発行を継続するためには必要でありますのでご理解を頂き一人でも多くの会員の皆様にご協力をお願いできればと思えます。振込用紙は広報誌の発送の時に同封させていただきますのでよろしくお願いたします。
尚、養正会に対してのご意見、ご要望及びご質問等がありましたら、事務局までご連絡ください。

養正会からのお知らせ
会員の皆様には、養正会活動にご理解ご協力をいただき有難うございます。
本総会・関西・関東・松山の各支部総会の多数ご参加頂きましたことに感謝申し上げます。来年の総会もご参加頂けますようお願い申し上げます。